

『SELECT English Conversation』 — 繰り返しが会話力をつける —

『SELECT 英語会話』 代表著者

元拓殖大学 北出 亮



編集方針

「英語会話」の学習指導要領における目標は、「英語を通じて、積極的にコミュニケーションを図ろうとする態度を育成するとともに、身近な話題について会話する能力を養う。」となっており、この「英語会話」の前身である「オール・コミュニケーションⅠ」の学習指導要領の内容と基本的にほとんど変わっておりません。科目名は「オール・コミュニケーションⅠ」から「英語会話」となりましたが、テーマ・題材、言語活動の扱い、文法の扱い、英語での授業は、以前の「オール・コミュニケーションⅠ」と同じ扱いです。したがって、現在発行されている「英語会話」の教科書『SELECT English Conversation (セレクト英語会話)』は、全国の先生方から、長年その使い易さで好評であった前の学習指導要領の『SELECT Oral Communication Ⅰ』の編集方針をそのまま踏襲しています。

現在使用されています『セレクト英語会話』は、今から約20年前に初めて学習指導要領に科目として「オール・コミュニケーション」が登場した、1996年初版の『SELECT Oral Communication A』から始まり、この間、『セレクト』の基本コンセプトとして長年教育現場で大きなご支持を頂いてきた「Key Expression方式」「5段階ステップ方式」「コミュニケーション活動」「ワークシート」などの指導法を、改訂の度ごとに受け継いできました。そしてまた、現在お使い頂いています『セレクト英語会話』も、「授業が進めやすく、教えやすい」「楽しく学べて力がつく」「基本表現を繰り返して段階的に学ぶので、授業がしやすく達成感がある」「教材が充実していて評価がしやすい」という基本的な編集方針に、さらに磨きをかけて編集されています。

先生方から支持された「5段階ステップ方式」

セレクトが全国の先生方に支持されていることの一つの大きな理由は、各レッスンが全て、「5段階ステップ方式」の活動パターンに基づいているという、使いやすさにあります。この方式が、特に英語が苦手な生徒にとってなぜ使いやすいのか、この方式の基本パターンを見てみることにしましょう。

① Key Expressions

まず、このレッスンの基本表現となる、3～5つの会話文が提示されます。この基本会話文が、この課で生徒が覚える「基本表現 (Key Expressions)」となり、この「基本表現」を生徒の記憶に残すために、これ以降のステップ活動の中で、最も効果的な活動を通して繰り返し何回も使っていくことになります。

② Warm-Up

次に、この「基本表現」を使うにあたって、よく使われる語句を確認していきます。音声でその語句を含んだ短い文を聞かせて、その文の中に教科書のイラストと語句で提示されているどの語句が入っているかを、クイズ形式で確認していきます。

③ Listening

次に、①で提示された会話の中に、②で確認しました語句を組み込んで会話が行われます。生徒は、その会話を聞いて、それに該当する項目に○をつけていきます。これは、表形式になっていて、答えも各項目別に選択方式になっていますので、解答しやすく、結果として、何回も「基本表現」を繰り返し聞くことになります。

④ Speaking (Communication)

次に、①の会話文の内容を自分のことに置き換えて、自分の立場で応答する練習をします。その答えを出すにあたっては、②のWarm-Upで確認した語句や、脚注にあるWords & Phrasesにある語句など

も参考にしながら、自分に合った語句を探すとよいでしょう。

⑤ (Interview / Role Play / Pair Work / Presentation) 活動

ここでは、会話の内容によって、その内容にもっとも適した3種類の異なった活動 (Interview, Role Play, Pair Work) が用意されています。

生徒同士で、①の会話文を使って、Interview / Role Play / Pair Workなどの活動を行いながら、その結果を、用意されているワークシートの表に記入しておきます。これも表形式でまとめやすくなっていますので、記入したことを、最後にPresentationのパターンにまとめて発表すれば完成です。

以上、「5段階ステップ方式」によるこれら一連の簡単な活動を通して、何回も同じ「基本表現」を聞いたり話したりすることになりますので、必然的に、会話文そのものを記憶する定着率も高くなります。

* Challenge!!

さらに、時間的に余裕がある場合には、これらの「基本表現」が使われている実際の場面の会話文が用意されていますので、クラスの生徒同士で、お互いにスキットの練習をすることもできます。また、こ

の場面はDVDにも収録されていますので、臨場感を持ってその場面を確認することもできます。

新たな追加項目とその対応

「英語会話」の科目には、前の学習指導要領にはない「海外での生活に必要な基本的な表現を使って、会話する」という項目がありますので、このことによる学習項目が、新しく追加された内容になっています。

海外での生活というと、高校生にとっては「留学」するということがいちばん可能性が高いことと思われれます。そこでこの教科書では、東西高校の生徒として新しく亜紀と拓を登場させ、アメリカへ留学させる「亜紀と拓の留学日記」の物語を作りました。また、「前見返し」は空港の到着ゲートの場面、「後ろ見返し」はお別れパーティの場面として使用しましたので、アメリカ入国からホストファミリーとの生活、学校での勉強、休日の観光、そして帰国のためのお別れパーティまで、留学全体の流れがわかるように工夫致しました。

基本的な会話表現は、イラストで面白く描かれた留学生活の様々な場面の中で、実用的な会話として

使われています。会話の場面は、本文の「亜紀と拓の留学日記」の中で47例、前後の見返しで25例、合計72例の対話文としての会話表現が使われていることとなります。

(1) 「亜紀と拓の留学日記 1～4」

留学生活の場面を、大きく

- ① ホストファミリーの家
- ② 食事と手伝い
- ③ アメリカの学校
- ④ 楽しい休日

の4つに分けています。4つの項目はそれぞれ、初対面のあいさつと家の中の案内、食事と手伝い、学校でのランチタイムや休み時間、授業や放課後、さらに市内観光や週末旅行など、具体的な生活場面に分かれています。

物語としては、留学生の亜紀と拓は同じ高校に留学しますが、様々な留学生活を紹介するために、別行動をとり、ホストファミリーも異なって設定されています。

会話の場面や表現は基本的なものを配置してありますが、学習者の生徒に興味を持たせるために、場面には面白い人物や動物を登場させ、時には少しオーバーに描き、楽しくユーモアのあるイラストを心がけました。

なお、留学の際の会話だけでなく、アメリカの文化的な背景や地理的な説明を簡単にまとめた「一口コラム」を場面ごとに準備しましたので、ご活用ください。

(2) 「前見返し」と「後ろ見返し」

「前見返し」と「後ろ見返し」は、ニューヨークの国際空港の到着ゲートと、亜紀と拓のアメリカでのお別れパーティの場面ですが、留学日記の中の一部として連結するストーリー性を取り入れました。

①前見返し

ニューヨークの国際空港の到着ゲートで、亜紀と拓がホストファミリーとあいさつを交わす場面が描かれています。空港では、荷物受け取り所、税関、荷物検査、両替、案内などの場面で接触する人達との会話を配置しました。また興味を持たせるために「前見返し」は、様々な動物(オウム、たこや鴨、カンガルー、蛇、らくだ)や人物(サンタクロース、自由の女神像、カリブの海賊、宇宙人、原始人、飛脚)、

そして物(石の貨幣、サンタのみやげ袋、海賊の宝石)がユーモラスに描かれています。留学の導入部分になりますが、楽しく学ぶことができます。

②後見返し

亜紀と拓が帰国するので、そのお別れパーティ会場での会話場面が描かれています。前見返しと同じように人物(リンカーン、自由の女神像、スーパーマン、サンタクロース、カリブの海賊、宇宙人、原始人、飛脚、忍者)や動物(オウム、猫、犬、リス、ハト、トナカイ、ペンギン、鴨)などがユーモラスに描かれています。ここでの会話は、滞米中の感想や思い出、別れのスピーチ、あいさつなどが準備されています。

(3) スターになって自己紹介

スターの写真ですが、生徒が興味を持つように、若者の夢と希望を実現している人達を基準に選び、現在の時代の中でスポーツ、芸能、政治、映画、作家、デザイナー、宇宙飛行士など世界で活躍している人や過去の人でも社会的活躍した人を中心に掲載しました。生徒と一緒に楽しみながらご活用ください。

終わりに

学習指導要領では、選択必修科目であった「オーラル・コミュニケーションI」から「英語会話」と科目名が変わり、教科書名も『SELECT Oral Communication I』から『SELECT English Conversation I』に変わりましたが、「使いやすく、教えやすく」「生徒が楽しく学べて、積極性が身に付く」「基本表現を繰り返すので、表現が無理なく身に付く」「評価がしやすく、教材が充実」などの基本方針は全く変わっていません。また、学習指導要領の追加項目には「亜紀と拓の留学日記」を新しく加え、「英語会話」のテキストとしてさらに充実度を高めています。ぜひご活用いただければ幸いです。

最後に、この『セレクト英語会話』の教科書に一貫して流れる編集方針は「積極的にコミュニケーションを図ろうとする態度を育てる」です。「英語会話」は、文法的、音声上の完璧さを目指すのが目的ではありません。恥ずかしがらずに積極的に話し、発表し、聞くことが最も重要です。英語を話そうとする生徒を励まし、評価し、自信を持たせるご指導を先生方をお願いする次第です。

【5段階ステップ方式】

① Key Expressions



② Warm-Up



③ Listening



④ Speaking



⑤ (Interview / Role Play / Pair Work / Presentation) 活動



* Challenge!!

